

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名 **みやき町立北茂安中学校**

1 前年度 評価結果の概要
 ・「毎日1時間30分以上の家庭学習を行っているか」の2回の調査結果は共に57%であった。単元計画の中に家庭学習で行う内容を事前に示し評価を行うなど、マイプランに家庭学習の在り方を示し学習意欲向上に努める。
 ・コロナ禍にあり職場体験などは実施できなかったが、進路適性検査や職業調べの時間を充実させキャリア教育を行ってきた。自己の生き方を考えさせ、キャリアプランニング能力を更に育成し、将来の夢や目標がもてるようにする。
 ・「働き方改革を意識して、業務の改善や在校時間の適正化を行っているか」の問いに78%が行っているとしている。今年度は実際の在校時間が既定の時間を超えている職員の数が年度当初(1学期)に集中している。業務内容を整理し、各個人の役割や組織的な取組方を具体的に示し、効率化、時間の縮減に努める。

2 学校教育目標 **夢と目標をもち 未来をひらく 北中生**
 ～「よさ」に気づき「やさしさ」をもち「たくましさ」をそなえた生徒の育成～

3 本年度の重点目標
 ① 体験活動とおして望ましい人間関係づくりを進め、人間関係形成能力を育成する。
 ② 学ぶ意欲、学び方、学習習慣の育成と基礎・基本の定着を図り、学力の向上をめざす。
 ③ 総合的な学習の時間における課題解決学習とおして、主体的に学ぶ態度を育成する。(学びの土台づくり)
 ④ キャリア教育により自己の生き方を考えさせ、キャリアプランニング能力を育成する。(自己実現の土台づくり)
 ⑤ 安心安全で生徒が明るく活動できる環境を作る。

4 重点取組内容・成果指標 **中間評価** **5 最終評価**

(1)共通評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者			
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果			評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	A	①、②の教師取組は95.7%と実施、改善を進めている。 ③AAI検査の見方や結果について講師を依頼し全職員で分析。1人1人の生徒の学習への悩みや学習への考え方を掘り下げて観ることができた。また、この結果を活用し特に気になる生徒への生徒理解を行うことができた。	A	①、②の教師取組は1月アンケート結果、95%。資料を職員で見直し授業の「まとめ」「振り返り」に留意し学習内容の定着に努めた。 ③AAI検査等の結果から優先的に支援を行う生徒を特定。生徒の学習スキルを教師が理解しうえて支援を行った。「毎日の授業に積極的に取り組んでいるか」のアンケート結果比較(10月、1月)では、どの学年も3%程度上昇。	A	①、②については達成率が高い。 ③についての取り組みは生徒一人一人の学習スキルを見極め日頃の授業の指導に有効な手立てであり、今後も継続し個別指導に努めてほしい。	学力向上担当 指導方法改善担当		
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「自分にはよいところがあると思う」について肯定的な回答をした生徒75%以上	B	「自分にはよいところがあると思う」について肯定的な回答をした生徒67.9%(県76.6%)。 ・様々な価値観について生徒自ら意見を述べる機会をとらえ、多様な考えに触れ、価値に対する認識を深めることができた。	B	・AAI検査等の結果を活用した学力向上対策4つの取組の中の「分かりやすい授業づくり」に努め、12月に実施した県学習状況調査結果を踏まえ授業改善に取り組んだ。 ・2回のQU検査結果から学級の生徒の関係がどのように変容しているか確認。キャリア教育の将来の夢実現につながるよう支援を行った。	B	・AAI検査やQU検査結果を活用して生徒一人一人の学習意欲を高めたり、将来の夢実現につながるよう支援を今後もおこなって欲しい。 ・1,2年生を対象とした県学習状況調査については県平均を下回った教科があった。授業参観の際には落ち着いた学習風景ではあったが、今後コロナ禍の中で学習形態も緩和されていくと考えるので、生徒が主体的に学習する授業の改善に取り組んでほしい。	学力向上担当 指導方法改善担当		
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業が役に立っているという生徒80%以上	A	・道徳科では、「道徳の授業づくり」リフレット活用による授業力向上とチームティーチングや輪審判により指導方法を工夫改善のため、生徒の心に響く授業を行う。	A	・道徳の授業が役に立っているという生徒は1月アンケートで88%。 ・学年職員による持ち回りの授業を行うことで、様々な価値観に生徒は触れるようにすることで、多面的な見方をするための大切さを知り、道徳的価値観について理解を深めることができた。	A	・道徳の授業については生徒の価値観を広げられるように工夫され、保護者に授業を公開する等、積極的に取り組まれている。	道徳教育担当		
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校がいじめ防止に取り組んでいると思う生徒90%以上	A	・隔週でアンケートを行い、生徒の抱える課題を早期に発見し、解消・改善に向けて組織的かつ速やかに対応する。 ・法に基づいたいじめの定義を生徒、職員が理解し組織的に対応する。	A	・学校がいじめ防止に取り組んでいると思う生徒87.5%。 ・「いじめ」による欠席など重大事案を認識し被害者の目線による指導を組織的に行うように研修を行い職員で確認を行った。	A	・学校がいじめ防止に取り組んでいると思う設定を昨年度より高く設定し改善に取り組まれている。 ・生徒指導上の課題については学年で早急に対応するとともに管理職への報告について研修を通じて確認を行っている。 ・「いじめ」による重大事案についても状況を見極めて組織的に対応を行っている。	人権・同和教育担当 生徒指導担当		
	○生徒が夢と目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした3年生85%以上	B	・各種体験活動では学びの振り返りを行い、キャリアパスポートを定期的に作成・整理する。	B	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒66.7%。	B	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒は、1,2年生は61%<3年生82%とおおきな開きがある。将来を見通したキャリア教育についてコロナ禍にあっても自覚できるような授業の工夫を行っていく。	特別活動担当 学年主任		
●健康・体づくり	●安全に関する資質・能力の育成	●児童生徒の交通事故発生件数を前年度以下	A	・生徒会による交通安全教室の実施。 ・毎月1日、20日登校時の交通指導の実施。 ・交通安全県民運動期間に合わせた交通指導の実施。 ・定期的な自転車点検の実施。	A	・10月現在、自転車同士の接触、車と自転車の接触による事故の2件を10月現在確認。スピードの出すぎがどちらも原因である。交差点内の確認など危険を予想し走行する等の指導を行っている。	A	・11月から3か月間では自転車と歩行者の接触事故1件を確認。登下校の混雑時の道路の譲り合いや横断歩道を自転車を通る際の注意など指導の徹底を行っている。	安全教育担当		
	○感染症予防対策の徹底	○新型コロナウイルスの校内感染を0(ゼロ)にする	B	・3密を回避した環境づくりと検温、手洗い、マスク着用の徹底。 ・教室等施設に対する適切な換気、消毒作業の実施、消毒液等の適切な設置・補充。	A	・コロナ感染については、学校施設内のアルコール消毒、換気やマスク、手洗いの徹底が行っていた。 ・学校行事など普段と異なる環境下での注意事項を職員間で共有し徹底していく必要がある。 ・10月よりLEBER健康管理ソフトを使って生徒、保護者、職員の健康状態のチェックを行っている。	A	・LEBER健康管理ソフトを使って生徒、保護者、職員の健康状態のチェックをスムーズに行うことができた。 ・コロナ禍の状況は変化しており、日頃の授業以外の参観授業や文化発表会実施方法の変更についても保護者の理解を得て実施することができた。	保健指導担当 保健主事		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	B	・優先順位、勤務時間を意識した業務遂行を意図化するため研修を実施。 ・定時退勤日を月曜日に定め、部活動休養日の適正履行。	B	・4～9月現在、長時間勤務者は月平均4人。 ・規定された長時間労働を意図し校務を計画的に効率よく行うことを機会をとらえ全職員で確認するようにしている。月曜日の定時退勤を呼びかけている。	B	・10～1月現在、長時間勤務者は月平均1人。 ・長時間勤務を意図し校務の優先順位を考え実行していくように周知徹底している。部活動の活動時間についても同様である。	教頭、教務主任		
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者			
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果			評価	意見や提言	
○教職員の資質・能力の向上	○教職員の経験や役割に応じた資質・能力の向上	○自分の資質・能力が向上したと思う教職員80%以上	A	・教育センター研修受講奨励、研究会への参加奨励。 ・校内研修を軸に生徒理解を行い授業づくりに対する知識・技能方法を検証、職員、生徒の意識改善に努める。 ・教員育成指標を参考にキャリアプランをもつ。	A	・教育センター研修受講者12名。 ・校内研修の中でAAI、Q-U検査結果を活用した生徒理解、全国学習状況調査等の分析結果の振り返りを実施し教職員の資質向上に努めている。 ・教員育成指標を参考にキャリアプランに意識して取り組む教職員68.2%。期首面談を活用しキャリアアップに努めている。	A	・コロナ禍の中でも感染に留意しオンラインや各種研修は実施されセンター研についても多数の職員が受講し研鑽を積むことができた。 ・AAI、Q-U検査結果など生徒の個別資料を活用し研修の中でAAI、Q-U検査結果を活用した生徒理解について研修を行うことができた。 ・教員育成指標を参考にキャリアアップを意図して取り組む教職員は1月アンケート結果は68%とおおきな変化はなかったが、人事評価からは学校目標に向かって改善を行っている職場の姿が見られた。	A	・「授業を工夫しわかりやすく教えよう」と研修に努めている」に対して教職員100%、生徒からも96%の結果が出ており、今後も校内研究を中心に生徒理解や授業づくりに取り組む意識改善に努めてほしい。	教頭、教務主任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望
 ・「毎日1時間30分以上の家庭学習を行っているか」の調査結果は1月調査で63%で昨年より改善している。しかし、1日当たりのゲーム、SNS利用に費やす時間が2時間以上と答えた生徒は52%と前年を超えている。日頃の生活習慣を見直し学習に取り組む時間の確保、健康安全を意識した生活習慣の見直し(がん教育の推進)について研修を深めていく必要がある。
 ・「働き方改革を意識して、業務の改善や在校時間の適正化を行っているか」の問いに昨年78%から今年86%と意識の改善は進んでおり、時間外勤務時間の減少につながっているが、今後も継続的な取組が必要である。また、本校職員の年齢構成も変化しており各種研修を深め教職員としての資質・向上に努め組織的な校務分掌への関わり方を考えていく必要がある。